



5-3 公共交通の利便性向上

誰もが安全かつ便利に移動できる交通環境を充実します。

■ 施策の展開内容

誰もが安全に安心して快適に地域で暮らせるよう、鉄道やバス、タクシーなどの利便性向上とバリアフリー化を進めていきます。

■ 現状と課題

- JR 常磐線は、通勤や通学をする市民の重要な交通手段となっています。快適に通勤、通学できるよう、駅施設の安全性や速達性の向上を図る必要があります。
- 市を横断する JR 成田線は、市民にとって重要な公共交通機関となっています。今後も沿線地域の活性化のため、利便性の向上を図る必要があります。
- 公共交通の拠点である駅施設は、多くの市民が利用します。誰もが安全かつ便利に利用できるよう、バリアフリー化などの環境整備を進めていく必要があります。
- 高齢者の増加にともない、バスやタクシーなどの地域公共交通の重要性はますます高まっています。誰もが快適・円滑に移動できるよう、地域公共交通の維持確保と充実を図る必要があります。

■ 主な取組

地域公共交通の利便性向上

- 地域公共交通の維持確保と充実を図るため、民間事業者と協力し、観光事業などと連携した利用の促進に取り組みます。
- 民間施設の送迎バスなど地域の輸送資源を活用し、地域公共交通を補完していきます。

鉄道・駅施設の利便性向上

- 市民が快適に鉄道を利用し、沿線地域が活性化されるよう、沿線自治体などと連携し、重要な公共交通機関である JR 常磐線や JR 成田線の輸送力の強化と利便性の向上を図ります。
- JR 東日本が行う、ホームエレベーターやホームドアなどの駅構内の施設の整備・改修及び駅の魅力を向上させるための新たな施設の整備について支援していきます。
- 駅利用者の安全性や快適性を保つため、市が整備したエレベーター・エスカレーターや自由通路の効果的な維持管理を行います。

■ 施策指標

指標名	現況値	目標値	備考
JR 成田線の1日の往復本数	40本 (R2)	42本	
我孫子駅に停車する特別快速の往復本数	0本 (R2)	6本	
JR 常磐線駅ホームドアの累計設置数	0基 (R2)	5基	我孫子駅7線、天王台駅4線が対象。令和7年度に5基、令和14年度に11基完了予定。
あびバスの延べ利用者数	205,443人 (R1)	220,000人	
市内バス停から乗車した印西市のふれあいバス延べ利用者数	16,609人 (R1)	18,000人	
東海道線との相互乗り入れ往復本数	0本 (R2)	1本	

■ 施策の満足度・不満足に関する指標（現況値は令和元年の市民アンケート結果を記載）

【公共交通の利便性の向上】

※令和元年に実施した市民アンケートで「重要」「やや重要」と回答した人の割合 85.1%

指標名	現況値	目標値	備考
満足している人の割合（市全体）	42.2%	60%	「満足」「やや満足」と回答した人の割合
不満を感じている人の割合	我孫子地区	26.4%	21.2%以下 「不満」「やや不満」と回答した人の割合
	天王台地区	21.3%	
	湖北地区	31.3%	
	新木地区	37.2%	
	布佐地区	39.8%	